

2022 年 1 月 31 日

報道機関 各位

東北大学大学院医学系研究科
東北大学病院
東北大学災害科学世界トップレベル研究拠点

長期化した COVID-19 パンデミックによる生活変容の影響 今後続くパンデミック下でのストレス軽減のターゲットを明らかにする

【研究のポイント】

- COVID-19 パンデミックの長期的な心理的影響を評価するため、2020 年 5 月 25 日および 2021 年 9 月 26 日に、Web アンケート調査を行った。
- 長期的な生活変容を及ぼす状態下においては、当初は物質面でストレスを感じていたのが、長期的には精神面でストレスを感じていることが分かった。
- SARS-CoV-2 の変異株 B.1.1.529 系統(オミクロン株)の出現により、今後もパンデミックが生じる中で、心理的ケアの重要性が明らかになった。

【研究概要】

COVID-19 パンデミックによる日常生活の変化は長期間に及んでいますが、長期的な心理的影響については明らかにされていません。東北大学病院・肢体不自由リハビリテーション学分野 奥山純子助教、東北大学災害科学国際研究所 門廻充待助教らと指定国立大災害科学世界トップレベル研究拠点のグループは、2020 年 5 月 25 日(日本で初めて COVID-19 感染者が報告された 131 日後)と 2021 年 9 月 26 日(610 日後)に、それぞれ 244 名と 220 名に対し Web アンケート調査を行いました。

「ストレスを感じる」と答えた人は、この 2 時点で 76%から 97%に増加しました。一方、外出やスポーツ・運動の頻度について、「減少した」と答えた人の割合は変わりませんでした。

「新型コロナウイルスの影響で困っていることがあればお聞かせください」という自由回答式の質問では、収入やマスクについてあげる人が多いと同時に、「人と会う機会が減る」「ストレスがたまる」という精神的なものについて答える人が多くなっていました。

現在の SARS-CoV-2 の変異株 B.1.1.529 系統(オミクロン株)の出現により、今後も生活変容を強いられる中で、ストレス軽減のための心理的ケアの重要性が明らかになりました。本研究成果は、2022 年 1 月 30 日に Journal of Disaster Research 誌に掲載されました。

【研究内容】

近年、人類に長く影響を与えた感染症の中で、COVID-19 ほど長期間にわたり生活変容をもたらしたものはありません。COVID-19 パンデミックによる心理的影響について、横断的調査での報告はありますが、日本における縦断調査の報告はほとんどありません。

今回、東北大学病院・肢体不自由リハビリテーション学分野 奥山純子(おくやま じゅんこ)助教、東北大学災害科学国際研究所 門廻充侍(せと しゅうじ)助教らと指定国立大災害科学世界トップレベル研究拠点のグループは、第 1 回目:2020 年 5 月 25 日(日本で初めて COVID-19 感染者が報告された 131 日後)と第 2 回目:2021 年 9 月 26 日(610 日後)に、それぞれ 244 名と 220 名に対し Web アンケート調査を行いました。その結果、「ストレスを感じる」と回答した人の割合は、76%から 97%に増加しました。一方、外出やスポーツの頻度が減ったと答えた人の割合は、1 回目と 2 回目では変化しませんでした。「COVID-19 によって困っていることがありましたらお答えください」と自由回答で質問し、KH coder^{注1}による共起ネットワーク分析^{注2}を行ったところ、第 1 回目では「収入の減少」や「マスク」という言葉を挙げた人が多く、2 回目の調査では「人と会えない」「ストレスがたまると」いう言葉が多くなりました。つまり、COVID-19 パンデミック下において、当初は金銭面やマスクなどの物資について困っている人が多かった一方、パンデミックの長期化により精神的な面での困難を訴える人が多くなることが分かりました。

結論:現在、SARS-CoV-2 の変異株 B.1.1.529 系統(オミクロン株)の出現により、長期的な生活変容が強いられる中、物質面よりも精神面の支援を重点化すべきことが明らかになりました。

【用語解説】

- 注1. KH coder:立命館大学の樋口耕一准教授が開発した、テキスト型データの計量的な内容分析(計量テキスト分析)もしくはテキストマイニングのためのフリーソフトウェア。各種の検索を行えるほか、どのような言葉が多く出現していたのかを頻度表から見ることができる。
- 注2. 共起ネットワーク:edge(線)で結ばれている node(円)同士は近い「距離」にあり、共通に出現していて共起関係があると言う。円の大きさは出現回数を示している。同じ色の円は距離が近い抽出語同士であることを示している。

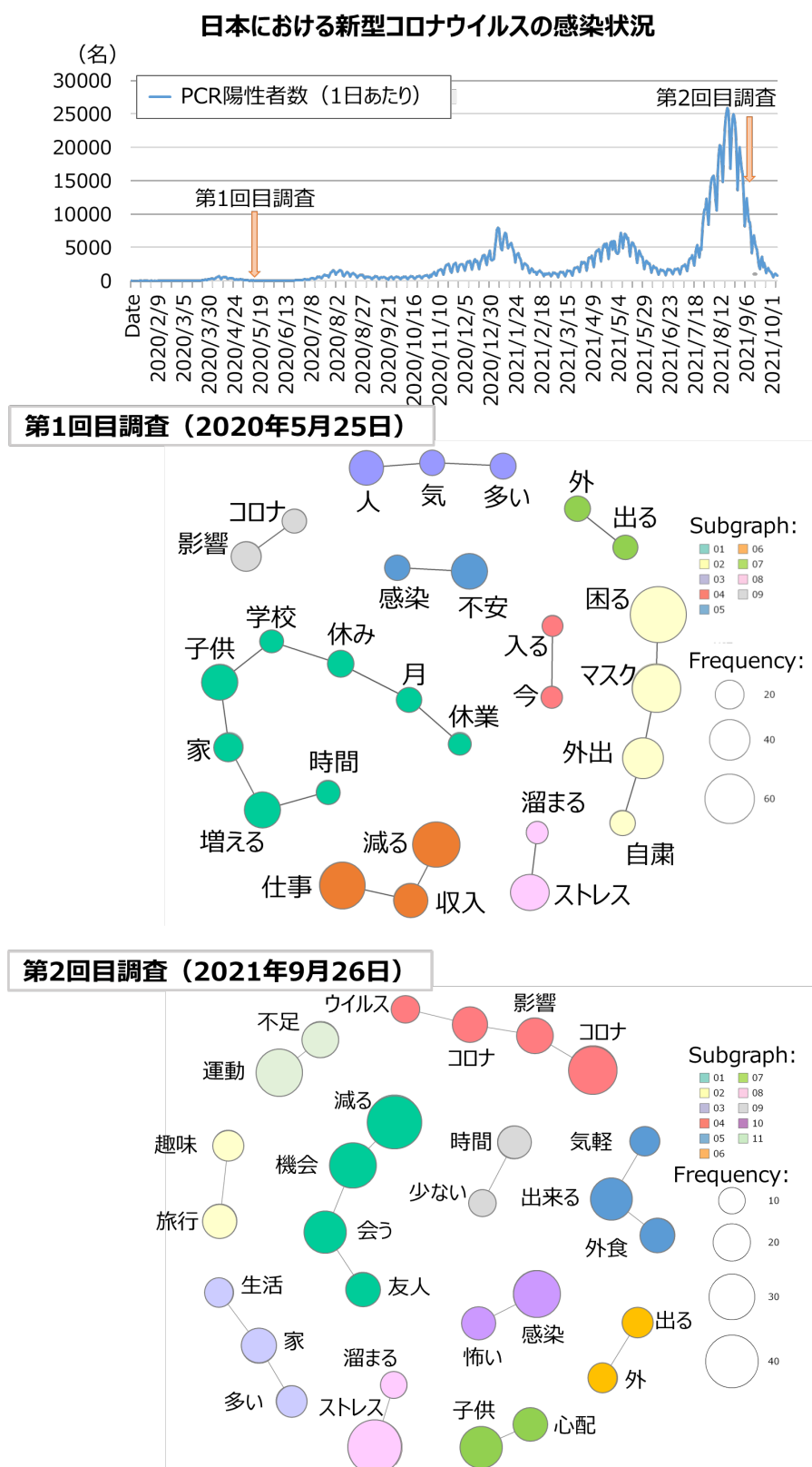


図 1. 「新型コロナウイルスの影響で困っていることがあればお聞かせください」という自由回答式の質問について KH coder 共起ネットワークによる分析

【論文題目】

Title: Life Alterations and Stress During the COVID-19 Pandemic in Japan: Two-Time Comparison

Junko Okuyama, Shuji Seto, Yu Fukuda, Kiyoshi Ito, Fumihiko Imamura, Shunichi Funakoshi, and Shinichi Izumi

タイトル:COVID-19 パンデミックの長期化による生活変容とストレス:二時期の比較

著者名:奥山 純子、門廻 充侍、福田 雄、伊藤 潔、今村 文彦、舩越 俊一、出江 紳一

掲載誌名:Journal of Disaster Research

DOI:10.20965/jdr.2022.p0043

【お問い合わせ先】

(研究に関すること)

東北大学病院 肢体不自由リハビリテーション科
助教 (東北大学プロミネントリサーチフェロー)
奥山 純子

電話番号: 022-717-7338

Eメール: junko.okuyama@med.tohoku.ac.jp

(取材に関すること)

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室
東北大学病院広報室

電話番号: 022-717-7149

FAX 番号: 022-717-8931

Eメール: press@pr.med.tohoku.ac.jp